

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名	大学リレーマラソン実施事業		担当部署	企画総務部 戦略企画課	
総合計画体系			根拠法令計画など	なし	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 <input type="text" value="27"/> 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期
(小項目)		大学連携			
施策	4	大学連携の推進			
基本事業	1	地域社会における連携			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 学生、市民及び市外からの参加者														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門教育大学と連携してリレーマラソンを開催し、参加者の健康増進と交流人口の増大を図る。														
事業計画	30年度に何を計画していたか	第4回鳴門リレーマラソンを開催する。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加人数</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位	参加人数	500	500	500	500	500	人
指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位										
参加人数	500	500	500	500	500	人										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	10月7日に第4回鳴門リレーマラソンを開催し、57チーム626名が参加した。体育祭やお祭りの時期と開催日が重なったことにより、予定より参加チーム及び参加者数が少なくなったため、募集期間を延長、またスポーツ店等に周知活動を行った。					
事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1						
	2						
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	参加人数	783	626	-	-	-	人
	目標達成率(実績/目標)		125.2	-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成30年度	当初予算額	0	0	0	0	500	500
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	500	500
		決算額	0	0	0	0	153	153
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)	総人件費		総事業費	
		0.1	0.0	732	885			

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	373	153	500	500	500
	うち一般財源	373	153	500	500	500
	人件費	723	732	732	732	732
	総事業費	1,096	885	1,232	1,232	1,232

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		多数の参加があり、盛況であった。
	効率性	A:効率的だった		実行委員会形式で実施し、効率化を図っている。
②成果に対する評価	指標名	参加人数		目標を上回る参加人数となっている。
	目標	500	人	
	実績	626	人	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		A		事業内容に改善の余地はあるが、事業の成果は達成している。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	リピーターも多く開催後の参加者アンケートでも継続実施の声を多くいただき大変好評なイベントとなっている。 第4回大会は、大学の行事等により開催日が例年より早くなったため、リピーターの方から参加しなかったができないとの声があった。また、開催準備及び運営やゲスト対応など事業実施にあたっては戦略企画課職員と学生スタッフだけで行っているが、開催日によっては教育実習等と重なるため、スタッフの人手不足が生じたため、開催日の日程調整については、早い時期より鳴門教育大学と調整し決定する必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	継続実施			
	R2年度	継続実施			